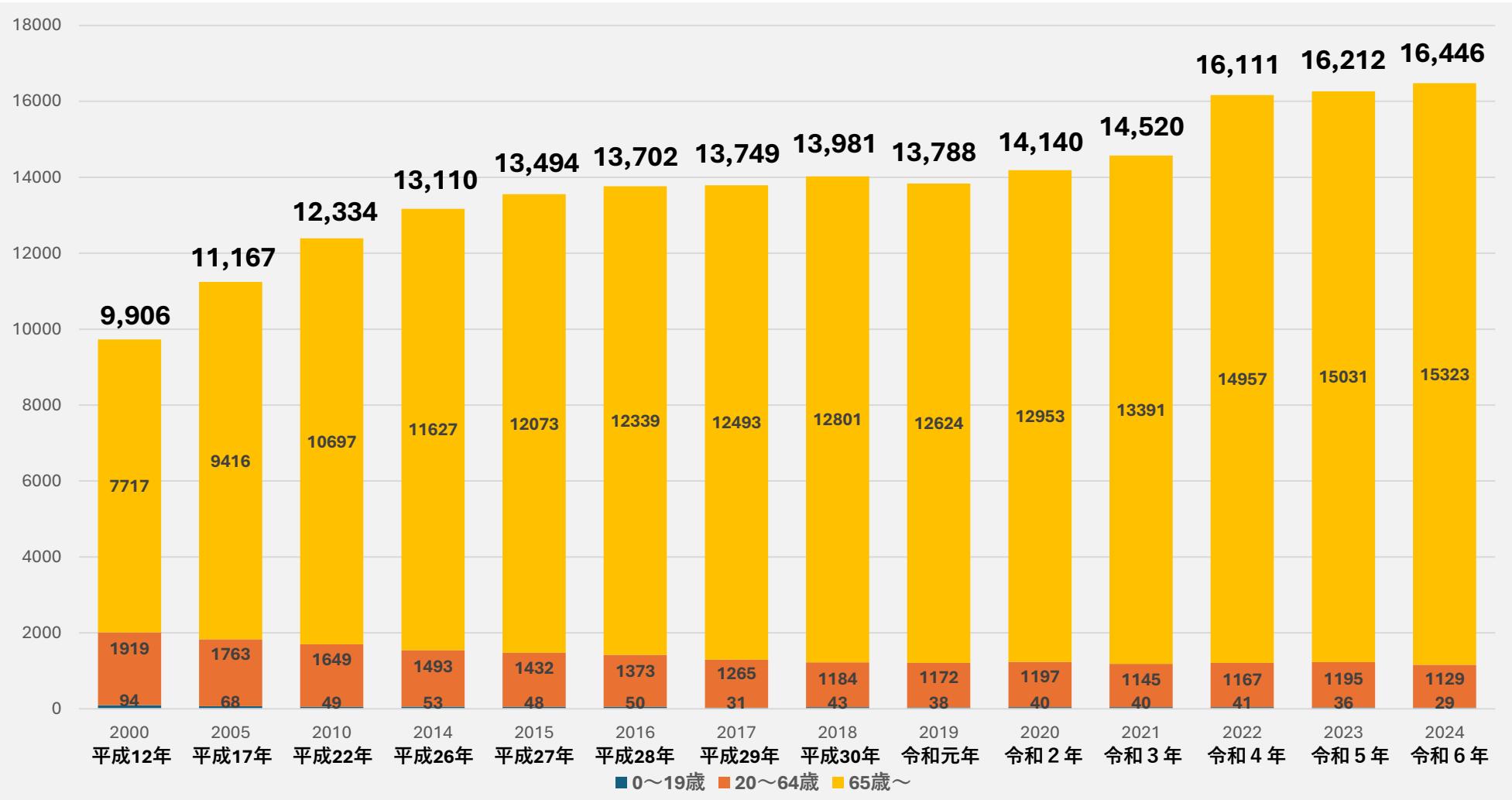


## 宮崎県における死亡の現状について

# 死亡者数の推移（宮崎県）

- 令和6年の死者数は16,446人であり、平成12年と比較すると、約6,500人ほど増加している。
- 年齢階層別では、65歳以上の割合が増加しており、64歳以下の死者数は、年々減少の傾向にある。



# 死因分類別死亡数・構成割合・死亡率 (全国／宮崎県)

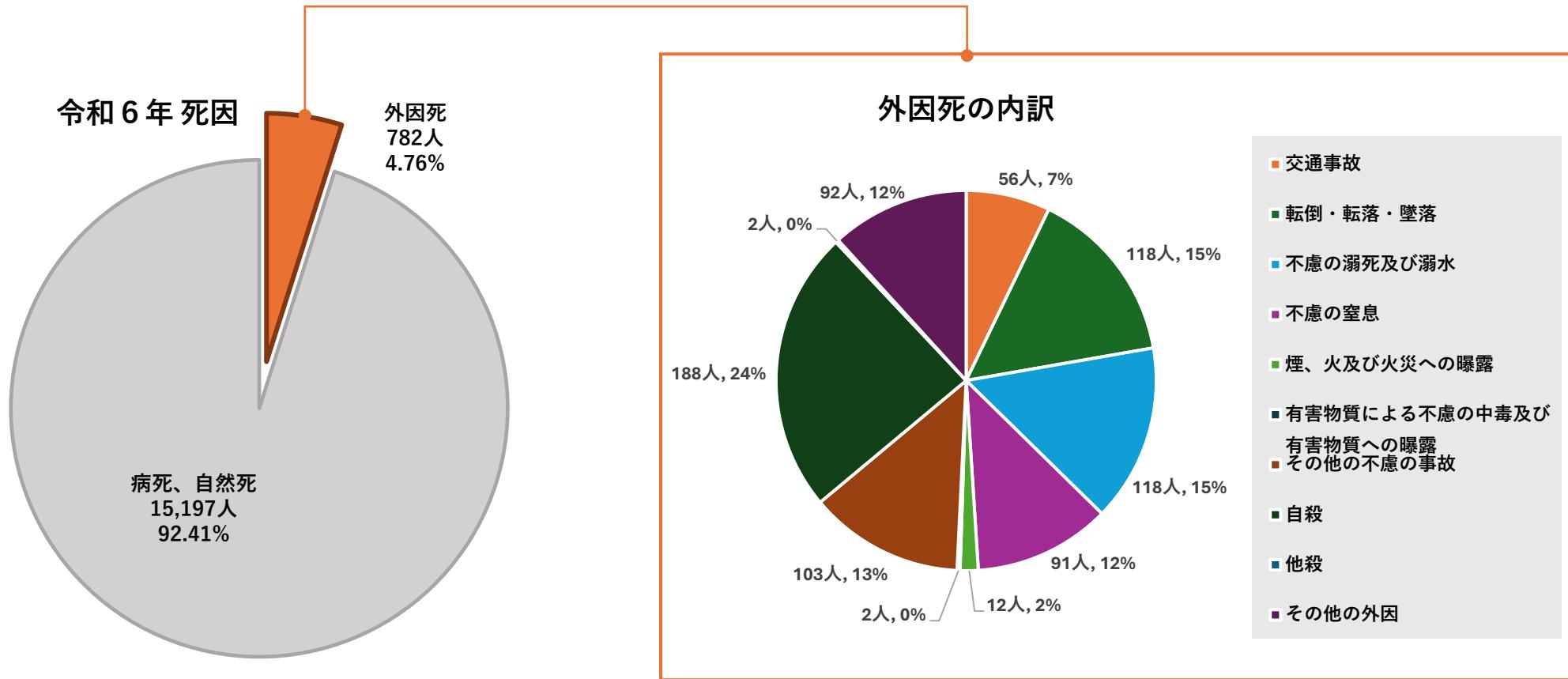
- 全死因の死亡率は、全国が1334.5人であることに対し本県は1610.8人であり、**約1.2倍**。
- 全国と本県の死因の構成比を比較すると、「病死・自然死」と「外因死」の比率は類似しているが、「外因死」の構成比では、本県は「不慮の事故」中の「交通事故」、「不慮の溺死及び溺水」、「煙、火及び火災への曝露」の割合が若干高い。
- なお、「特殊目的用コード」には、新型コロナウイルス感染症による死者が含まれている。

	全国			宮崎県		
	死亡数	死亡総数に占める割合 (%)	死亡率 (人口10万人対) 総人口	死亡数	死亡総数に占める割合 (%)	死亡率 (人口10万人対) 総人口
全死因	1,605,378	100.00%	1334.5	16,446	100.00%	1610.8 1.2倍
病死、自然死	1,494,825	93.10%	1242.4	15,197	92.41%	1488.5 1.2倍
外因死	74,680	4.65%	62.1	782	4.76%	76.6 1.2倍
不慮の事故	45,743	2.85%	38	500	3.04%	49 1.3倍
交通事故	3,511	0.22%	2.9	56	0.34%	5.5 1.9倍
転倒・転落・墜落	11,935	0.74%	9.9	118	0.72%	11.6 1.2倍
不慮の溺死及び溺水	9,905	0.61%	8.2	118	0.72%	11.6 1.4倍
不慮の窒息	8,186	0.51%	6.8	91	0.55%	8.9 1.3倍
煙、火及び火災への曝露	982	0.06%	0.8	12	0.07%	1.2 1.5倍
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	543	0.04%	0.5	2	0.01%	0.2 0.4倍
その他の不慮の事故	10,681	0.67%	8.9	103	0.63%	10.1 1.1倍
自殺	19,608	1.22%	16.3	188	1.14%	18.4 1.1倍
他殺	222	0.01%	0.2	2	0.01%	0.2 1.0倍
その他の外因	9,107	0.57%	7.6	92	0.56%	9.0 1.2倍
特殊目的用コード	35,873	2.23%	29.8	467	2.84%	45.7 1.5倍

出典：令和6年人口動態統計上巻死亡第5.19表死因（死因簡単分類）別にみた都道府県（特別区-指定都市再掲）別死亡率（人口10万対）  
令和6年人口動態統計下巻死亡第4表死亡数、死因（死因簡単分類）・性・都道府県（特別区-指定都市再掲）別

# 死因分類別死亡数・構成割合（宮崎県の詳細）

- 死因に占める「外因死」の割合は約4.76%
- 外因死の内訳は、「自殺」・「不慮の溺死及び溺水」・「転倒・転落・墜落」が多い。



# 死亡割合・死因順位別年次推移（全国）

- 平成30年以降、1位は「悪性新生物（がん）」、2位は「心疾患」、3位は「老衰」である。
- 上記3項目は10万人あたりの死亡率の数値は上昇傾向にある。

年次	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位		第7位	
	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率
2000 平成12	悪性新生物	235.2	心疾患	116.8	脳血管疾患	105.5	肺炎	69.2	不慮の事故	31.4	自殺	24.1	老衰	16.9
2005 平成17	悪性新生物	258.3	心疾患	137.2	脳血管疾患	105.3	肺炎	85.0	不慮の事故	31.6	自殺	24.2	老衰	20.9
2010 平成22	悪性新生物	279.7	心疾患	149.8	脳血管疾患	97.7	肺炎	94.1	老衰	35.9	不慮の事故	32.2	自殺	23.4
2011 平成23	悪性新生物	283.2	心疾患	154.5	肺炎	98.9	脳血管疾患	98.2	不慮の事故	47.1	老衰	41.4	自殺	22.9
2012 平成24	悪性新生物	286.6	心疾患	157.9	肺炎	98.4	脳血管疾患	96.5	老衰	48.2	不慮の事故	32.6	自殺	21.0
2013 平成25	悪性新生物	290.3	心疾患	156.5	肺炎	97.8	脳血管疾患	94.1	老衰	55.5	不慮の事故	31.5	自殺	20.7
2014 平成26	悪性新生物	293.5	心疾患	157.0	肺炎	95.4	脳血管疾患	91.1	老衰	60.1	不慮の事故	31.1	腎不全	19.8
2015 平成27	悪性新生物	295.5	心疾患	156.5	肺炎	96.5	脳血管疾患	89.4	老衰	67.7	不慮の事故	30.6	腎不全	19.6
2016 平成28	悪性新生物	298.4	心疾患	158.4	肺炎	95.5	脳血管疾患	87.5	老衰	74.3	不慮の事故	30.6	腎不全	19.7
2017 平成29	悪性新生物	299.5	心疾患	164.4	脳血管疾患	88.2	老衰	81.4	肺炎	77.7	不慮の事故	32.4	誤嚥性肺炎	28.7
2018 平成30	悪性新生物	300.7	心疾患	167.6	老衰	88.2	脳血管疾患	87.1	肺炎	76.2	不慮の事故	33.2	誤嚥性肺炎	31.0
2019 令和元	悪性新生物	304.2	心疾患	167.9	老衰	98.5	脳血管疾患	86.1	肺炎	77.2	誤嚥性肺炎	32.6	不慮の事故	31.7
2020 令和2	悪性新生物	306.6	心疾患	166.6	老衰	107.3	脳血管疾患	83.5	肺炎	63.6	誤嚥性肺炎	34.6	不慮の事故	30.9
2021 令和3	悪性新生物	310.7	心疾患	174.9	老衰	123.8	脳血管疾患	85.2	肺炎	59.6	誤嚥性肺炎	40.3	不慮の事故	31.2
2022 令和4	悪性新生物	316.1	心疾患	190.9	老衰	147.1	脳血管疾患	88.1	肺炎	60.7	誤嚥性肺炎	45.9	新型コロナ感染症	39.0
2023 令和5	悪性新生物	315.6	心疾患	190.7	老衰	156.7	脳血管疾患	86.3	肺炎	62.5	誤嚥性肺炎	49.7	不慮の事故	36.7
2024 令和6	悪性新生物	319.3	心疾患	188.2	老衰	172.0	脳血管疾患	85.5	肺炎	66.6	誤嚥性肺炎	52.9	不慮の事故	38.0

※死亡率「人口10万人のうち何人死亡したか」で表現される。

2024年の各死亡率= 2024年に各死因により死亡した日本人の数／2024年の日本人口×10,000

出典：令和6年人口動態統計上巻死亡第5.1.1表死因順位別にみた年次別死亡率（人口10万人対）

# 死亡割合・死因順位別年次推移（宮崎県）

- 令和元年以降は本県も全国と同様に、1位は「悪性新生物（がん）」、2位は「心疾患」、3位は「老衰」である。
- 死亡割合は、「悪性新生物」が低下する一方、「老衰」が増加している。
- 高齢化に伴い、「誤嚥性肺炎」の増加もみられる。
- 東日本大震災被災県はその年の第1位が「不慮の事故」となっている。

年次	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位		第7位	
	死因	割合%	死因	割合%	死因	割合%	死因	割合%	死因	割合%	死因	割合%	死因	割合%
2000 平成12	悪性新生物	29.1	心疾患	15.5	脳血管疾患	14.7	肺炎	8.7	不慮の事故	4.2	自殺	3.8	老衰	1.9
2005 平成17	悪性新生物	27.8	心疾患	16.1	脳血管疾患	13.0	肺炎	9.9	不慮の事故	3.9	自殺	3.2	老衰	2.2
2010 平成22	悪性新生物	27.8	心疾患	16.8	脳血管疾患	11.2	肺炎	10.5	不慮の事故	3.4	老衰	3.3	自殺	2.5
2011 平成23	悪性新生物	26.8	心疾患	17.3	肺炎	11.0	脳血管疾患	10.6	老衰	3.8	不慮の事故	3.3	自殺	2.4
2012 平成24	悪性新生物	26.7	心疾患	16.9	肺炎	11.2	脳血管疾患	10.9	老衰	3.8	不慮の事故	3.5	自殺	2.1
2013 平成25	悪性新生物	27.3	心疾患	17.1	肺炎	10.1	脳血管疾患	10.0	老衰	4.3	不慮の事故	3.4	腎不全	2.3
2014 平成26	悪性新生物	26.5	心疾患	17.1	肺炎	10.6	脳血管疾患	9.9	老衰	5.0	不慮の事故	3.2	腎不全	2.1
2015 平成27	悪性新生物	26.8	心疾患	16.5	肺炎	10.7	脳血管疾患	9.9	老衰	5.5	不慮の事故	3.3	腎不全	2.0
2016 平成28	悪性新生物	26.6	心疾患	16.3	肺炎	10.6	脳血管疾患	9.3	老衰	6.6	不慮の事故	3.1	腎不全	2.1
2017 平成29	悪性新生物	25.9	心疾患	16.3	脳血管疾患	9.1	肺炎	8.0	老衰	6.5	不慮の事故	3.2	誤嚥性肺炎	2.3
2018 平成30	悪性新生物	25.6	心疾患	16.7	脳血管疾患	9.0	肺炎	7.7	老衰	6.7	不慮の事故	3.2	誤嚥性肺炎	2.3
2019 令和元	悪性新生物	26.1	心疾患	16.4	脳血管疾患	8.6	老衰	7.7	肺炎	7.4	不慮の事故	2.8	誤嚥性肺炎	2.4
2020 令和2	悪性新生物	25.2	心疾患	16.4	老衰	8.3	脳血管疾患	8.2	肺炎	7.0	不慮の事故	3.0	誤嚥性肺炎	2.8
2021 令和3	悪性新生物	24.2	心疾患	16.9	老衰	9.0	脳血管疾患	8.0	肺炎	6.3	不慮の事故	3.2	誤嚥性肺炎	3.1
2022 令和4	悪性新生物	22.8	心疾患	16.7	老衰	9.2	脳血管疾患	7.4	肺炎	6.2	誤嚥性肺炎	3.2	不慮の事故	3.0
2023 令和5	悪性新生物	22.4	心疾患	16.1	老衰	10.3	脳血管疾患	6.8	肺炎	6.0	新型コロナ感染症	3.7	誤嚥性肺炎	3.0
2024 令和6	悪性新生物	21.9	心疾患	14.5	老衰	11.2	脳血管疾患	7.0	肺炎	6.5	誤嚥性肺炎	3.4	不慮の事故	3.0

出典：令和5年人口動態統計上巻死亡第5.20表死因順位別にみた都道府県（特別区-指定都市再掲）別死亡割合

# 年齢階級別の死亡順位・死亡数・死亡率(全国)

- 10歳～39歳までの年齢層での死因の1位は「自殺」で、15歳～29歳までの死因の約半数。
- 40歳以上の主な死因は、「悪性新生物」「心疾患」「脳血管疾患」である。
- 90歳以上では、「老衰」が多い。

	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合	死因	死亡数	死亡率	割合	死因	死亡数	死亡率	割合
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	398	58	31.4	周産期に特異的な呼吸障害等	234	34.1	18.5	乳幼児突然死症候群	55	8.0	4.3
1～4歳	先天奇形、変形及び染色体異常	105	3.3	20.2	不慮の事故	49	1.6	9.4	悪性新生物<腫瘍>	47	1.5	9.1
5～9歳	悪性新生物<腫瘍>	81	1.8	23.2	不慮の事故	46	1.0	13.2	先天奇形、変形及び染色体異常	40	0.9	11.5
10～14歳	自殺	132	2.6	25.7	悪性新生物<腫瘍>	95	1.9	18.5	不慮の事故	51	1.0	9.9
15～19歳	自殺	627	11.8	48.8	不慮の事故	167	3.1	13	悪性新生物<腫瘍>	120	2.3	9.3
20～24歳	自殺	1,219	21.4	56.2	不慮の事故	242	4.3	11.2	悪性新生物<腫瘍>	158	2.8	7.3
25～29歳	自殺	1,127	19.1	49	不慮の事故	248	4.2	10.8	悪性新生物<腫瘍>	223	3.8	9.7
30～34歳	自殺	1,121	18.9	40.5	悪性新生物<腫瘍>	428	7.2	15.5	心疾患	213	3.6	7.7
35～39歳	自殺	1,212	18.5	28.6	悪性新生物<腫瘍>	902	13.8	21.3	心疾患	374	5.7	8.8
40～44歳	悪性新生物<腫瘍>	1,768	24	25.9	自殺	1,407	19.1	20.6	心疾患	690	9.4	10.1
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	3,913	45.8	31.6	自殺	1,721	20.1	13.9	心疾患	1,434	16.8	11.6
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	7,700	80.1	34.8	心疾患	2,823	29.4	12.8	自殺	1,985	20.7	9.0
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	11,330	135.9	37.8	心疾患	3,980	47.7	13.3	脳血管疾患	2,207	26.5	7.4
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	17,064	228.8	40.7	心疾患	5,432	72.8	13	脳血管疾患	2,745	36.8	6.6
65～69歳	悪性新生物<腫瘍>	27,566	383.3	42.1	心疾患	8,034	111.7	12.3	脳血管疾患	4,093	56.9	6.3
70～74歳	悪性新生物<腫瘍>	50,545	620.7	40.2	心疾患	15,138	185.9	12	脳血管疾患	8,067	99.1	6.4
75～79歳	悪性新生物<腫瘍>	67,336	858.2	35.9	心疾患	23,033	293.6	12.3	脳血管疾患	12,402	158.1	6.6
80～84歳	悪性新生物<腫瘍>	73,569	1,203.7	27.9	心疾患	35,058	573.6	13.3	老衰	18,272	299.0	6.9
85～89歳	悪性新生物<腫瘍>	64,697	1,646.1	20.2	心疾患	47,262	1,202.5	14.7	老衰	41,011	1,043.5	12.8
90～94歳	老衰	66,651	3,199.8	21.7	心疾患	49,366	2,369.9	16.1	悪性新生物<腫瘍>	41,486	1,991.6	13.5
95～99歳	老衰	53,514	8,454.0	32.4	心疾患	27,354	4,321.3	16.6	悪性新生物<腫瘍>	13,343	2,107.9	8.1
100歳以上	老衰	19,720	22,666.7	47.8	心疾患	5,848	6,721.8	14.2	肺炎	1,910	2,195.4	4.6

※死亡率「人口 10万人のうち何人死亡したか」で表現される。

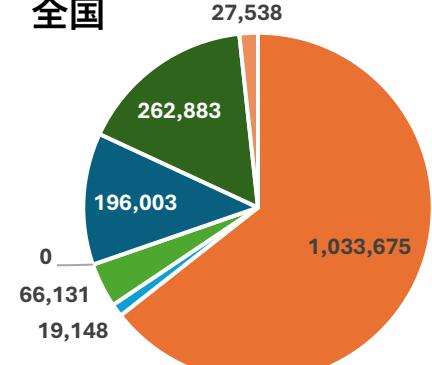
2024年の各死亡率 = 2024 年に各死因により死亡した日本人の数 / 2024 年の日本人口 × 100,000

出典：令和 6 年人口動態統計 上巻 死亡 第 5.1.7 表 死因順位別にみた性・年齢（5 歳階級）別死亡数・死亡率（人口 10 万人対）及び割合

# 死亡場所 (全国／宮崎県)

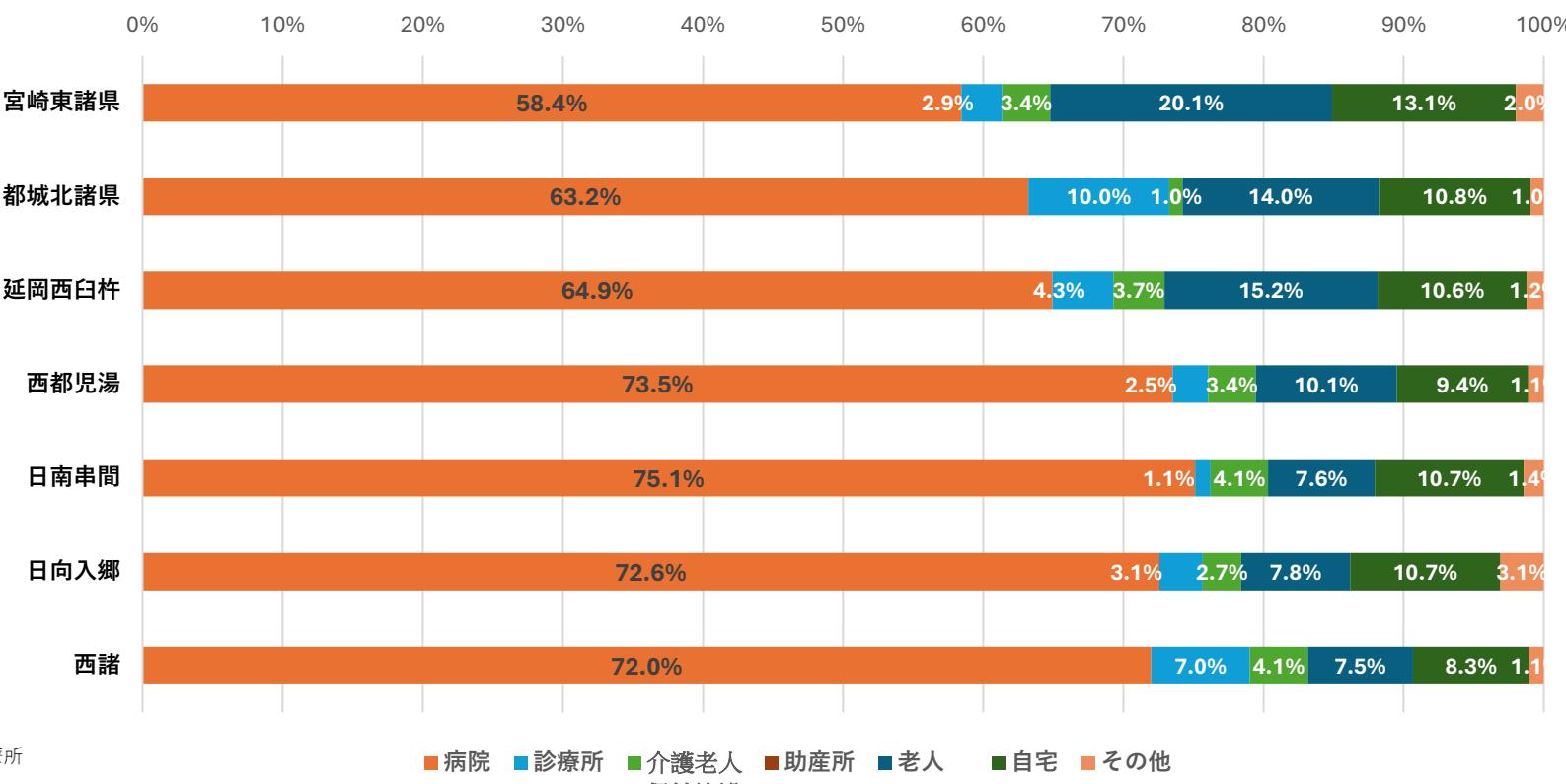
- 死亡した場所は、全国 「病院」 > 「自宅」 > 「老人ホーム」  
宮崎県 「病院」 > 「老人ホーム」 > 「自宅」
- 本県では「病院」「診療所」「介護医療院等」が全体の 72.1%を占めており、全国（69.7%）よりも約2%高く、「老人ホーム」「自宅」の割合は26.3%で、全国（28.6%）よりも低い。

全国



2次医療圏ごとの死亡場所割合

宮崎県



病院

診療所

介護医療院・介護老人保健施設

助産所

老人ホーム

自宅

その他

病院

診療所

介護老人  
保健施設

助産所

老人

自宅

その他

老人  
ホーム